学校番号	T3005

平成31年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	高校数学Ⅰ　新訂版　（実教出版）						
副教材等	自作プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・1年生の数学Ⅰでは、主に小学校・中学校の内容を学び直します。どれも高校の数学にとって欠かせない内容ですのでしっかりと身につけていきましょう。
・授業は個々の習熟度にあわせて行いますので、自分自身が苦手とする内容を重点的に学習することができます。
・分からない箇所があれば積極的に質問し、苦手をひとつずつ克服していきましょう。

2　学習の到達目標

基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、
数と式および2次関数の分野について理解し、考える力を高めることを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：数学的な見方や考え方	c：数学的な技能	d：知識・理解
観点の趣旨	小・中学校の内容や、数と式および2次関数の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	小・中学校の内容や、数と式および2次関数において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	小・中学校の内容や、数と式および2次関数において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	小・中学校の内容や、数と式および2次関数における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。
評価方法	出席状況 授業への取り組み 計算力確認テスト 授業プリントの記述状況 課題の提出等	授業プリントの記述状況 定期考査 課題の提出等	授業プリントの記述状況 定期考査 課題の提出等	計算力確認テスト 授業プリントの記述状況 定期考査 課題の提出等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	単元名		学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法	
4 5 6 7	基礎力充実		小学校・中学校における算数・数学の内容を復習する。特に計算能力の習熟を図り、数学的教養の習得のみならず、工業科で必要とされる数学的能力を充実させるよう指導する。習熟度別に授業を行い、プリント学習を進める。具体的には、整数の加減乗除、分数の演算、正負の数の演算、文字式、方程式、連立方程式、平方根の計算等である。	○	○	○	○	個々の学習到達度を詳細に把握し、習熟度別に学習した到達点を評価する。 一例として a：数学的内容に興味を持ち意欲的に取り組んでいる。 b：授業で学んだ考え方を応用することで類題や複合問題に取り組み、一定の理解をしている。 c：定義や公式を理解し、それを正しく用いることで、問題を解くことができる。 d：整数および小数・分数の四則演算を正確かつスピーディーに解くことができる。 等が挙げられる。	個々の学習到達度に応じ 出席状況 授業への取り組み 計算力確認テスト 授業プリントの記述状況 定期考査 課題の提出等 を総合的に判断する。	
9	数と式	整式	・乗法公式による展開 ・因数分解	○		○		a：文字式の取り扱いに関心を持ち、積極的に取り組んでいる。 c：問題に応じて適切な公式を用いることで、正しく展開または因数分解することができる。	授業プリントの記述状況 定期考査	ただし出席状況、授業への取り組みはすべての単元で重視する。（a） また9月以降も計算力確認テストは適宜実施するが、その記述状況等により主に、関心・意欲・態度の観点で評価するものとする。
10		方程式と不等式	・1次方程式の解法	○	○			a：変数を用いることの有用性を認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとしている。 b：1次方程式と2次方程式の解法の違いを理解し、正しく解を求めることができる。 d：不等号の意味を正しく理解し、適切な不等号を用いることができる。		
11			・2次方程式の解法	○	○					
12			・不等式の意味と解法	○			○			
1	2次関数	関数とグラフ	・1次関数とそのグラフ ・2次関数とそのグラフ	○			○	d：傾き、y切片、頂点、軸の意味を理解し、グラフから正しく読み取ることができる。	授業プリントの記述状況 定期考査 課題の提出等	
2		2次関数の値の変化	・2次関数の最大値・最小値	○	○			b：定義域によって値域が定まることを理解し、2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 c：2次関数のグラフを用いることで、2次不等式の解を求めることができる。		
3			・2次関数のグラフと2次不等式	○		○				

※表中の観点について　a：関心・意欲・態度　b：数学的な見方や考え方
c：数学的な技能　d：知識・理解

※原則として一つの単元（題材）ですべての観点について評価することになるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。